

112件

27人

1億8,360万

1,000円

昨年1年間の長崎市にまつわるこの数字は何でしょう？
(答えは次のページをご覧ください)

特集

市民

市政

プレゼン
ト

生活情報

子育て

健康

被爆者援護

税

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

前のページの数字は、(上から)平成28年に長崎市で起きた「**火災件数**」、火災による「**死傷者数**」、「**損害総額**」です。先月、市内でも火災が発生し、高齢者が犠牲となりました。火災から尊い人命や貴重な財産を守るためには、**火災の発生防止と円滑な初期消火活動**が大切です。そのためには、**市民一人ひとりの火災予防への理解と協力**が必要です。



特集

市民

市政

ご意見
プレゼント

生活情報

子育て

健康

被爆者援護

税

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

やってあげばよかった…… ではもう遅い！



【問い合わせ】 予防課 ☎822-0429

今年に入り、市内で火災が相次いでいます。ただ、火災の大半はわたしたちの心がけと行動で防ぐことができるのです。

火災は増えてるの？

▼平成28年の火災件数(市内)は112件で、平成27年から17件増加しました。約3日に1件発生していることとなります。

▼火災による死者が5人(前年から6人減)、負傷者は22人(前年から7人増)でした。

危険な建物火災

平成28年の火災のうち、建物火災は67件起きており、そのうち約7割が「住宅火災」となっています。他の火災と比べると住宅火災による死者の発生率は高くなり、建物火災で亡くなったかたの約8割が住宅火災によるものでした。

「坂のまち」長崎

長崎市の地形は、平地に乏しく、市街地の大部分が山腹まで階段状に広がっています。

斜面地では、住宅が密集して立ち並んでいるため、車が入らない場所も数多くあります。いったん火災が起きると、消防隊が

消火を始めるのが平地に比べ遅くなる

ことがあり

ます。また、階段や狭い道路のために、高齢者や体の不自由な方が避難することが難しいケースも多

くみられます。このようなことから、「坂のまち」長崎は、火災への備えが特に重要です。市民のみなさんの防火に対する深い認識と初期消火活動がとて大切になります。

過去の火災

市内で実際にあった事例

住宅が密集した地区の木造2階建ての住宅で、壁付けコンセントに差し込んだプラグから出火。家人が住宅用火災警報器の警報音に気づいて通報しました。この火災による人的な被害はありませんでしたが、強風にあおられて、近隣の住宅にも延焼し、6棟の家屋に被害が出ました。このように、木造家屋が密

斜面地が持つ火災のリスク

- ・密集した木造住宅
- ・空き家の増加
- ・階段や通路が狭く、消防車の進入が困難

火災を起こさない～家庭で～



わたしは火災を起こさない！

市内で発生した火災の原因をしてみると、「**こんろ**」など**住宅で起きた火災が多い**ことが分かります。また、暖かくなってきたとはいえ、暖房器具などの取り扱いにも注意してください。

家庭での心がけと行動が、市内の火災件数を減らすことに直結つながります！

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
1 位	たき火 21 件	たき火 21 件	放火 17 件	たき火 12 件	こんろ 18 件
2 位	たばこ 20 件	電気器具・配線 15 件	電気器具・配線 12 件	電気器具・配線 11 件	放火 15 件
3 位	こんろ 18 件	たばこ 14 件	たばこ 11 件	放火 11 件	たき火 13 件
4 位	放火 17 件	こんろ 9 件	こんろ 11 件	たばこ 10 件	電気器具・配線 13 件
5 位	電気器具・配線 8 件	火遊び 9 件	たき火 10 件	こんろ 8 件	たばこ 11 件

家庭でチェック！ ～あなたの家庭の危険度は？ 防火診断～

火災原因の多い順に、家庭の状況をチェックしましょう（たき火を除く）。当てはまるものがあれば、改善しましょう。すぐに安心度がアップします！

原因		☑ チェック
こんろ		<input type="checkbox"/> 火を消さずにこんろから離れてしまう <input type="checkbox"/> こんろの周りに燃えやすいものがある
放火		<input type="checkbox"/> 家の周りに燃えやすいものを置いている
電気器具・配線		<input type="checkbox"/> タコ足配線をしている <input type="checkbox"/> コンセントにほこりがたまっている
たばこ		<input type="checkbox"/> 寝たばこをしている <input type="checkbox"/> 吸い殻を水にぬらさずに捨てている

いざというときに備えて

家庭での設置が義務づけられている**住宅用火災警報器**はもちろんのこと、**消火器**も準備しておきましょう。

「野焼き」は禁止されています！！ 焼却炉を使用せずにごみを燃やす行為（いわゆる「野焼き」）は、原則禁止されています。



**火災を
起こしてしまうと…**

一般的に、重大な注意力を欠いたことで失火した場合、損害を賠償する責任を負わなければなりません。

集めた地区では、斜面地と同じように、消防車が進入することができない通路などが多く、大きな火災につながる恐れがあります。

なりません。

例えば、石油ストーブに給油するときに、ストーブの火を消さずに給油したことで、ストーブの火がこぼれた灯油に着火して火災が起きた場合など、責任を問われたケースがあります。



特集

市民

市政

プレゼン
ト

生活情報

子育て

健康

被爆者援護

税

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

家庭での火災予防とあわせて、地域での初期消火が、被害を抑えるためにもとても重要です。

火災を広げない～地域で～

斜面地・住宅密集地の不安を解消

初期消火用具

車が入れない場所などに設置されています。

赤い「初期消火ボックス」の中に、ホースと消火栓のふたを開けるための金具が入っています。また、箱の中には、消火活動をするための説明書があるので、地域の人が協力して操作することができます。



お住まいの地域のどこにあるか日頃から確認して、事前に訓練を行いましう。自治会などで初期消火用具を使った消火訓練を行うときには、最寄りの消防署、または、地域の消防団に連絡ください。いざというときに備えて、訓練には積極的に参加するよう心がけてください。

広報ながさき編集担当者が初期消火用具を体験！

使用経験のない担当者が、初期消火ボックスを開けてから、放水ができるようになるまでにかかった時間は2分15秒。実際の火災現場まで移動したり、新たなホースをつないだりすると、さらに時間が必要です。日頃の訓練が大切だと痛感しました。※管理されている自治会の立ち会いのもと、体験しました。

- ①ボックスを開けて、手順を確認する。
 - ②消火栓のふたを開ける。
 - ③消火栓にホースを取り付ける。
 - ④ホースに筒先を取り付ける。
 - ⑤消火栓を開いて放水する。
- ※一般的な手順です。用具により異なることがありますので、訓練などを通して確認しましょう。



新たな防火防災のけん引役

「長崎市指導消防団員」誕生！

地域の防火防災で中心的な役割を担う「長崎市指導消防団員」が誕生しました。今年度、消防局で独自に始めた取り組みです。

市内の分団から推薦された団員は、昨年、消火や救急などの専門的な講習を受け、109人が認定されました。

これから、地元を熟知する団員として、安心・安全なまちづくりのため中心となって活躍します。



火災から地域の人命・財産を守る ～市民の活動～

消防団

▼69個分団、2803人（平成29年2月現在）
 ▼歴史：明治27年4月、公設長崎消防組が誕生。昭和22年9月に、消防団として33個分団、1619人の陣容で発足しました。
 ▼地域における防火防災の要として幅広い活動を行っています。

成が進みました。
 ▼火災予防には市民一人ひとりの防火意識が大切ですが、家庭の主婦を中心に組織されているのが「婦人防火クラブ」です。現在、市内全域に広がる大きな組織に成長して、市民防火組織の中心的な存在になっています。

少年消防クラブ

▼40クラブ、1042人（平成29年2月現在）
 ▼歴史：昭和52年、自治会、子ども会などの地域単位に2クラブが誕生したのが始まりです。

▼火災予防の知識を学んだり、防災マナーを身につけた社会人としての将来の成長を期待することを目的として結成しています。主に、小・中学生を対象に活動しています。

幼年消防クラブ

▼93クラブ、9369人（平成29年2月現在）
 ▼歴史：昭和55年12月、第1号のクラブが誕生。

▼子どもの火遊びによる火災のほとんどは、幼年期の子どもたちによるものです。こうしたことから、幼少のころから火災の恐ろしさと火の用心の大切さを認識させるため結成、活動しています。

消防団員募集中！

18歳以上の市民であれば、性別、職業を問いません。現役学生で活動する団員もいます。地域の安全安心を守るため、あなたのチカラを活かしてみませんか！詳しくは予防課市民消防係（☎822-0425）まで。



長崎市消防団 PR動画

婦人防火クラブ

▼323クラブ、3万7917人（平成29年2月現在）
 ▼歴史：昭和38年11月、市中心部から遠隔地で、密集地である式見町に第1号の婦人防火クラブが誕生。それ以来、市中心部や高台の家屋密集地などを中心に結

火災からまちを守る ～消防局～

消防局は斜面地や住宅が密集した地区での火災予防活動を進めています

▶新しい消防車両を導入しています

- ①車体の小型化
- ②水槽付きポンプ車の配置
- ③ホースの軽量化などの特徴があり、災害現場で早い消火活動ができます。



900L水槽付き消防ポンプ自動車

▶初期消火用具を設置しています

- ▶自治会や消防団と合同で消防訓練を実施しています
- ▶火災の発生を想定した消防計画を立てています

火災は必ず減らせます

「調理中はこんろから離れない」「消火器を用意しておく」「コンセント周りを掃除する」など…、この特集を読まれて気づいたことなど、火災を起こさないためにできることは何でも取り組んでみましょう。

あなたの心がけと行動で、今年の長崎の火災は必ず減らせます。

	平成28年	平成29年
火災件数	112件	?件
死傷者数	27人	?人
損害総額	1億8,360万1,000円	?円